

ブロック会議報告

●東北ブロック会議（9月18日（木）～19日（金） 福島県・スパリゾートハワイアンズ）

参加者は約 90 名。畑修東北ブロック大会実行委員長の開会のことばに続き、中込三郎全専各連会長、岡部隆男東北ブロック長・福島県会長があいさつを述べた。

続いて、来賓あいさつとして増子輝彦参議院議員、佐藤雄平福島県知事の代理として土屋文明福島県総務部次長、櫛田一男いわき市長が祝辞を述べた。

祝電披露に続き、永年勤続者表彰が行われ、対象者 17 名を代表して福島県の吉川真理子氏が表彰を受け、謝辞を述べた。

開会式終了後、小憩を挟み総会が開かれた。最初に、佐々木明文部科学省専修学校教育振興室長補佐より、専修学校の振興に関する検討会議の審議状況、昨年 12 月の学校教育法の一部改正（自己点検・評価等の義務化、履修証明制度の創設等）、平成 21 年度専修学校関係予算概算要求、（独）日本学生支援機構の奨学金返還指導等について説明が行われた。次に、全専各連事務局が、検討会議の審議状況及び今後の見通し、厚生労働省関連としてジョブ・カード制度、現在検討されている（独）雇用能力開発機構の今後の在り方と専修学校及び各種学校への影響等について説明を行った。最後に、全専各連の健全な運営に資するためにも専教振で実施する事業に各県で積極的に協力してほしいと述べた。

引き続き議事に入り、第 1 号議案「平成 19 年度経過報告並びに収支決算報告」、第 2 号議案「平成 20 年度収支予算案」について異議無く承認された。

小憩後、研修会が行われ、「フラガールに学ぶ、ピンチをチャンスに変える法！」をテーマに、最初に斎藤一彦常磐興産（株）代表取締役社長が基調講演を行い、スパリゾートハワイアンズ設立の経緯や時代背景、危機的状況を打破するための自身の哲学等について講演した。続いて、松永真理バンダイ社外取締役、江尻義久（株）ハニーズ代表取締役社長、佐々木文科省専修学校教育振興室長補佐の 3 名でパネルディスカッションが行われ、各パネラーの実体験に基づく事例や、組織内における危機意識の共有化、そこからの生まれる新しい発想の重要性等について活発な意見が交わされた。

最後に閉会式が行われ、岡部福島県会長のあいさつに続き、橋本榮一宮城県会長より次期開催県あいさつが行われた。最後に、芳賀進大会実行副委員長より閉会の言葉が述べられ会議を終了した。

その後、懇親会となり大会の全日程を終了した。

●南関東ブロック会議（10月17日（金） 千葉県・三井ガーデンホテル）

参加者は約 140 名。滝沢徳夫千葉県副会長の開会のことばに続き、開催県を代表して秋葉英一千葉県会長、中込三郎全専各連会長があいさつを述べた。

続いて、来賓として白戸章雄千葉県副知事（代理）、高橋雅之文部科学省専修学校教育振興室室長が祝辞を述べ、最後に堂本暁子千葉県知事他の祝電を披露し、本会議に入った。

はじめに「文部科学省報告」として高橋室長から、1条校化に向けた専修学校の振興に関する検討会議の進捗状況について、これまでの論点を整理し、職業教育をキーワードとした新学校種創設の方向で合意を得て、最終報告案として取りまとめていくことが説明された。このほか「自己点検・自己評価」への積極的な取り組み、奨学金貸与に係る取り扱い、入学辞退者に対する授業料の返還対応等、施策推進への協力を求めた。

文部科学省の報告を受け、吉田松雄全専各連副会長が、1条校化への推進に向け、職業教育の充実、ならびに自己点検評価の実践をはじめとした、学校運営の透明性確保など、専修学校として果たすべき課題に積極的に取り組むよう協力を要請した。

続いて、全専各連事務局から、全専各連諸活動の状況報告、専教振の行う各種事業への協力、参加の要請、および厚生労働省関連の施策、私学共済事業について説明がなされた。

引き続き、各都県からの行政報告の説明、ならびに各都県協会の事業報告・事業計画（資料参照）を承認後、全体会を終えた。

休憩後、参加者が2分科会に分かれ、第1分科会では、一橋大学大学院社会学研究科キャリアデザイン担当特任講師の見館好隆氏が、「基礎力を伸ばす授業」をテーマに、なぜ企業や団体はコンピテンシーを持つ学生を求めるのか等について講演を行った。第2分科会（高等課程分科会）では、「各都県の現状と今後の振興策について」をテーマに現状報告と今後の方策について討議を行った。

小憩後、分科会が合流し、清水信一全国高等専修学校協会制度改善研究委員長から、第2分科会における報告のほか、「中学卒業生を受け入れる専修学校各種学校 学校案内」の発行（千葉県）について説明が行われた。

ここで、赤池誠章山梨県会長（衆議院議員）が公務多忙のなか駆けつけ、祝辞を述べた。

最後に、岡本比呂志埼玉県会長からの次期開催県あいさつに続き、閉会のことばを以て会議を閉会した。

その後、交流会となり、すべての日程を終了した。